



シャミナード年 2011年8月

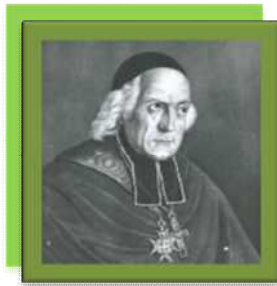
「キリストにおいて造り上げられ、信仰をしっかりと守った」

(コロサイ 2 : 7)

ギヨーム・ヨゼフ・シャミナード師と共に 信仰の人、若者の覚醒者、ギヨーム・ヨゼフ・シャミナード

1804年8月14日、マドレーヌ聖堂は、ボルドーのダビオ大司教の通達により、シャミナード師が1800年11月に追放から帰国したことによって創立された聖母青年会の使用に指定されました。

その8月14日の通達に引き続き出された8月17日の二番目の通達で、シャミナード師はマドレーヌ聖堂付司祭として正式に任命されます。



ダビオ大司教

「世話を委ねられた若者を道徳と信心において訓育することに熱意をもって取り組んでくれたことに対して、名誉教会参事会員であるシャミナード師に私たちの感謝を公に示すことを望み、また、彼が数年にわたって成功裏に徳性の涵養を行なってきた素晴らしい働きの恩恵を発展させ永続させるよう彼に権限を与えるために、私たちは彼をマドレーヌと呼ばれる聖堂にある私たちによって設立された救済の小礼拝堂付司祭に任命しましたし、また、今ここに任命します。」

ダビオ大司教

動機づけられた若者

ソダリストのいくつかの義務（文書と言説 1-10 より）

- ・第1条 毎日、
各ソダリストは無原罪の聖母マリアの小聖務日課を唱え、また、死亡したソダリストのために詩篇 129 と主の祈りを3回唱える。
- ・第4 - 5条 毎日曜日と祝日
 - イ. ソダリティーのミサ（朝 8 : 00）
 - ロ. ソダリティーの晩課（午後 3 : 00）は、教話（45分）と、ゲーム及び散歩の故に、強く勧められる。
 - ハ. 夕刻に全体集会が行われる。この全体集会は、1年に5回、父親の部会と一緒に行なわれる。
- ・第3条と6条 毎月
初金曜日の夕方、全体集会と各班の個別集会を行う。
- ・第7条 ソダリティーの各会員は、自分が望む額を会の経費として納める。
- ・第8条 各班は、所属の会員が病気の時、その世話をする。

- ・第17条 ソダリストは、誰であれ、その忠実さをそれぞれの役員からしかるべく証明されないものは、会員名簿から外される。
- ・第18条 ソダリティーに忠実であると認められるすべての不在会員が所属する一つの班が設けられる。この班の責任者はこれらの会員と文通を保つ。



←シャミナード師の時代の
マドレーヌ聖堂

回心を目的とする気晴らし — 手本となる人を真似る

文書と言説 1-26 ソダリティー青年女子部のための一般的指針

無原罪の御宿りのソダリティーの集まった若い女性のために、結果として望まれる利点は、世に在って陥りがちな危険から彼女たちを守ることである。これらの危険とは：

- ① 不道德な社交グループ
したがって、健全な社交グループを作るべきである。
- ② 世間の騒がしい楽しみ
したがって、害のない楽しみを彼女たちに味わわせるよう働くべきである。
- ③ だらしない不敬な会話
したがって、敬虔さなどから来る会話への好みを彼女たちに吹き込み、宗教については単純さと快活さで話さなければならない。
- ④ 世俗的な歌と悪書
したがって、宗教的な歌に慣れ、また、出来るだけ、楽しみながら心に良い思いを培ってくれる興味深い本を読む、そのような機会を彼女たちに与えなければならない。
- ⑤ 華美な服装
したがって、娘たちの年令にふさわしいものを承認するに当って、彼女たちが身につけるべきでないものを識別できるよう、品位と慎みの模範を目の前に示して、彼女たちを助けなければならない。

⑥ 心の墮落した者、宗教的原理を持たない人々の友人や腹心の友となる危険な機会

したがって、娘たちの心を培い、徳の小道に導こうと努める高潔な友人を彼女たちに見つけてやらなければならない。

⑦ 若い娘が信心ということにぎょっとしてそれから遠ざかるのは、しばしばそれを厳密で事細かすぎる外観の下でしか見ていないし、また、信心は多少の犠牲を要求することを知っているからである。

したがって、信心は最も持続的でほんとうの喜びの源であり、また、それが求める犠牲は、間もなく、徳の実践の貴重な実りであるあの心地よい平和、清らかな喜びを感じ始める心にとって心地よいものとなる、ということを経験させるよう努力すべきである。

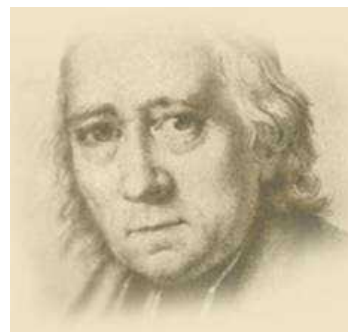
印象に残る儀式

毎日曜日8時丁度に、シャミナード師は祭壇に上ります。二人の補佐に伴なわれたリーダーが進み出て、ソダリストの名前の書かれた登録簿を儀礼係から受け取り、それを司式司祭に手渡して、次のように言います。「敬愛する指導者である神父様、マリア様の崇敬に身を捧げた若者たちがあなたの承認を求めています。彼らの名前が、私たちのために屠られた神の子羊の祭壇から、命の書に移されますように！」。この登録簿はミサの間ずっと祭壇の上に置かれます。

(Joseph Verrier 著 『ソダリティー』 P. 151)

内容豊かな説教

私たちの手許にはシャミナード師の手書きのノートがいくつか残っていますが、その中のいくつかは、彼が説教のために使用したものに違いありません。それらはどれも完全に準備されたテキストではありません。作文は彼の精神と一致していませんでした。彼は、ただ集中するためだけに書いたこと、また、しばしば何人かの著者を要約したことを述べています。話す時が来ると、彼はほとんど即席で話しました。それで、話の流れや展開には口ごもりがありました。彼のあらゆる表現には強いアクセントのペリグー訛りがあり、それは、ほかの状況では、騒がしい冷やかしの笑いを引き起こしたかもしれません。しかし、マドレーヌ聖堂に集まるレギュラーメンバーは、笑うためにここに来たわけではありません。彼らは、美しい言葉ではなく、真理に飢えていたのです。彼らは好意に満ちた態度でシャミナード師の話に耳を傾けました。



しばしば、歌うことはソダリストの注意をひきました。彼らの一人が指導し、だれもが単純でよく知られたメロディーの歌が好きでした。

(Joseph Verrier 著 『ソダリティー』 P. 152)

魅力的な集会

シャミナード師は汚れなきマリア会に次のように書いています。「教育はあなたがたが目指している目標です。でも、気ままな楽しみにふけることが好きな少女たちに教訓的なお話しをしてください！ そのことは彼らを追い払う結果となるでしょう。それで、私たちは彼らとその楽しみから引き離しておびき寄せる聖なる計略を用いなければなりません。それができるのは、あなた方が講話の中におもしろいことを織り込むことによってだけなのです。」

このように、聖フィリッポ・ネリの模範に従って、彼は行動しました。日曜日の夕方の集会は6：30に始まり、2時間続きました。礼拝堂は、ソダリティーの手段が許す限り、飾られ、明りが灯された集会室となりました。彼らは歌い、また、講話、対話相談、評論などに耳を傾けました：彼らは自分が抱えている困難なことを皆の前に持ち出し、また、自由に説明を求めたりしました。話すのは、通常は、ソダリストたちでした。

指導者のシャミナード師はすべての原稿をすでに読んでいました：すなわち、彼は準備していない即席の発言は何であれ黙許せず、ただ、答えをまとめたり、提出された困難を解決したり、ふさわしい勧めをもって討論を始めたりするためだけに集会に介入しました。彼は、若い人々がその夕方の集会は自分たち自身の活動であったと考えるような満足感を、彼らに残しました。彼は若者を退屈させないようにしました：すなわち、講話者の交替、関心を引き付ける多様な話題など、そして、彼の介入は常に感謝をもって受けとめられました。このように、誰もが幸せな気分でした。集会には常におおぜいの人々が集まり、そこにはいつも新しい楽しみがありました。

(Joseph Verrier 著 『ソダリティー』 P. 156)

永続的なミッション



ブラジルのMLCメンバー
Sydney Matias の作品

このペリゲーの司祭の活動の下に、ボルドーのソダリティーは、この普遍的なミッションにふさわしいと思われるあらゆる手段を用いて「キリスト者を倍増させる」という『永続的なミッション』となりました。

ソダリストたちは彼らの運動を愛し、そこに自分たちの仲間を惹きつけました。1808年には、ソダリストは600人ぐらいいました。これらすべてのキリスト者のお陰で、マドレーヌ聖堂は宣教的な影響の中心となりました。ソダリティーの会員から多くの司祭・修道者の召命が生まれました。1869年に、ボルドーのドネ大司教はマドレーヌの会員たちに次のように言いました。「もしボルドーにある私たちのあらゆる事業のルーツに立ち戻ってみれば、それらの事業の一つひとつの始まりにシャミナード師の名前が見出されます。」

(J. B. Armbruster 著 『マドレーヌ聖堂』 P. 31)

信 仰 の 人

ソダリティーの伝統

M. J. Meyer は次のように書いています。「ある日、私がボルドーの文学部の建物から出てきた時、私と同じ教科課程に出席していた一人の老人が出てきて、私に言いました。“あなたはマリア会のブラザーですか。私はあなた方の創立者シャミナード師の古いソダリティー会員です。彼は何とすばらしい信仰の人でしょうか！ 彼は信仰について話す時、疲れを知りませんでした。ああ、何という信仰の人でしょうか！ 彼は聖人でした！」 (EF 1 - 186)

Mr. Dumontet (1813–1903) の証言

「シャミナード師は、弟子である私に、信仰の徳に関する最も実践的で励みになる助言を与えてくれました。『もし常に信仰をどう用いるかを知れば、あなたが継続しなければならない苦闘は、それでもなお新しい勝利を獲得して、少しずつ容易なものとなるでしょう。この武器を上手く用いることによって、私たちは救いに関するあらゆる目に見えない敵に、今でも打ち勝つことが出来るのです。』 シャミナード師は私に、徳に進歩する確かな方法として、特に信仰の祈りを勧めてくれました。『信仰をもって祈る人は誰でも、常に益々徳に進み、一つひとつの祈りをそのように行なうことで、次第に高い聖徳に達するでしょう。そのように祈る人は、進歩していると気づきませんが、丁度、庭の植物が気付かなくても確かに成長しているように、その人が進歩していることは確かなのです。もし、私たちが自分の情欲を克服して、前に進もうと望むなら、信仰をもって行動しましょう。実際に、例えば、使徒信条を『私は貧しく生まれ、貧しく生活された私たちの主イエス・キリストを信じます』とか、『私はこころの柔和で謙遜なイエス・キリストを信じます』とか唱えて、この真理における信仰の行為を為すことによって貧しさへの私たちの確信を実践することが出来ます。』 それで、私たちはこれらの真理を、それらを自分自身に適応させて黙想します。私たちは自分の人生をイエス・キリストのそれと比較し、イエス・キリストの人生は私たちの模範であると信じます： それにしても、私たちは自分の人生がイエス・キリストのそれと一致しているかどうか怪しいものです。」 (Positio super causae 序文 P. 377)

「私は、信仰の人になりなさい、と繰り返すことを決して止めません。それは、信仰がなければ、私たちはあまり善を行なうことが出来ないし、もし出来たとしても、それは私たちにとって価値のないものとなるでしょう」 (手紙Ⅱ - 447、1828年1月28日付 Bro. Clouzet への手紙)

祝うべき月日： 13日 福者ヤコブ・ガッブ
14日 マドレーヌ教会はコングレガシオンの聖堂となる (1804年)
15日 聖母の被昇天の祭日
(16日～21日 マドリードのワールド・ユース・デー)